別紙様式

令和7年度　学校評価報告書

小樽市立忍路中学校
校長　本庄　有希子

【評価】 数値目標に対する達成度を、以下の基準で評価することを基本とする。
A：100％以上　／　B：80％以上100％未満　／　C：80％未満

※　評価する際には、学校関係者と密接な連携をとり、単に数値の達成率を見るだけでなく、目標達成に向けたプロセスや、児童生徒の成長の度合い、具体的な取組の内容などを総合的に評価すること。

1　本年度の重点目標

子どもたち一人一人の可能性を引き出す
様々なニーズを有する児童を誰一人取り残さない多様な学びの機会を確保する。
児童のそれぞれの良さや持ち味を生かし、みんなが活躍できる機会や出番がある授業づくりを行う。1人1台端末を活用した児童一人一人の学習進度や興味・関心に応じた指導など、児童の特性に合った柔軟な学びを実現する。

2　自己評価結果・学校関係者評価の概要と今後の改善方策

小樽市教育推進計画の目標		施策項目	数値目標	自己評価		学校関係者評価
				評価	取組状況・達成状況	
1	未来を創る力の育成	確かな学力の育成	全国学力・学習状況調査の平均正答率を全国平均以上とし、2学期末ほっかいどうチャレンジテストの正答率について前年度を上回る。誤答に取り組む生徒を100％とする。	B	1人1台端末を活用した週内課題や家庭学習への取組を全校ですすめてきた。また、過去の全国学力・学習状況調査問題に取り組み、その分析から学力向上検討委員会を中心に小中連携した授業改善をすすめてきた。全国学力・学習状況調査の平均正答率はどの教科も、全国平均を上回る結果であり、誤答に取り組む生徒は100％であった。2学期末ほっかいどうチャレンジテストの正答率は67％であり、前年度比67％と同じあり、上回ることができなかった。	◎
		特別支援教育の充実	「個別の教育的ニーズに応じた指導の充実に努めている。」に肯定的回答をする教員の割合を100％とする。	A	特別支援教育コーディネーターを中心とし、個別の教育支援計画や教育指導計画に基づいた教育活動をすすめてきた。また、定期的に個別支援対策委員会を実施し、支援体制の改善、充実に努めた。後期教職員学校評価の肯定的回答は100％であり、個別の教育的ニーズに応じた指導の充実に係る取組について目標値を達成した。	◎
		国際理解教育の充実	「学校はALTを活用した外国語など、新しい時代に対応した教育活動をすすめている。」に肯定的回答をする保護者の割合を100％とする。	A	英語の授業時間に限らず、ALTと生徒が交流できるよう、登校時の生徒の出迎えや学校行事などへの参加を積極的にはたらきかけてきた。後期保護者学校評価では100％の肯定的回答であり、目標値を達成した。	◎
		理数教育の充実	全国学力・学習状況調査の質問調査等で「算数・数学の勉強が好き。」と肯定的に回答した生徒の割合を80％以上にし、生徒学校評価「数学や理科が好き。」の回答を90%以上とする。	C	1人1台端末を活用し、知識・技能などの基礎的な資質能力を確実に育成する授業づくりを実施してきた。また、学力向上検討委員会による分析結果を共有し、様々な学習スタイルを取り入れ、生徒が感じている困難や不安を早期に発見して解消するように努め、授業改善をすすめてきたが、全国学力・学習状況調査の肯定的回答は0％であった。後期生徒学校評価においても肯定的回答は67％であり、目標値を達成できなかった。	◎
		情報教育の充実	ほっかいどうチャレンジテスト等、MEXCBTを活用した問題やデジタルドリルでの配信を年間24回以上実施する。	A	小中で一貫した発達段階に応じた活用目標を設定し、ICTを活用した授業作りをすすめてきた。ほっかいどうチャレンジテストや1人1台端末を活用した週内課題において、計画的に問題配信を24回以上実施することができた。	◎
		キャリア教育の充実	「学校は地域の特色を生かした教育活動をすすめている。」に肯定的回答をする保護者の割合を100％とする。生徒学校評価「忍路や蘭島を将来もっとよくするために取り組みたい。」について肯定的回答を90%以上とする。	C	地域人材や学校運営協議会委員の協力により、地域の特色やよさを生かした探究的な学習をすすめてきた。また、担当教員と講師が積極的に連携し、より主体的な学習になるよう授業改善に努めた。後期保護者学校評価では100%の肯定的回答であったが、前期生徒学校評価で58％、後期生徒学校評価で50％であり、目標値を達成できなかった。	◎
改善方策		・「確かな学力の育成と定着」に向けて、「小樽授業づくり5つのステップ」に基づいた授業改善、1人1台端末を活用した授業の振り返り、「生徒に委ねる」場面を明確にした授業づくりをすすめることで、確かな学力の育成を図る。 ・年間を通したキャリア教育の充実に向けて、指導計画の見直し、各教科の学習と将来の生き方とのつながりを意識した授業改善をすすめていく。				
学校関係者評価委員による意見		・少人数の学校だからこそ、生徒一人一人の目標の実現や高校入試に向けて、一人一人の可能性をどのように引き出すのか具体的に考え、「確かな学力」を身に付けさせてほしい。また、週内課題や家庭学習への取組を定期的に確認したり、より親密に学習や進路について話す機会を設定したりするなど、さらに工夫改善に努めてほしい。 ・端末を活用して学力を身に付けることは大切であると思う。それとともに、理数教育の必要性を感じることができる具体的な授業の取組があるとよいと思う。 ・不登校傾向にある生徒も高校に進学できるように、不登校生徒への対応や工夫も継続して行ってほしい。				

2	豊かな心の育成	道徳教育の充実	「学校は、あらゆる機会を通じて規範意識の醸成に努めている。」に肯定的回答をする保護者の割合を90%とする。	A	特別の教科道徳の授業公開や外部講師を活用した人権教室を実施するなど、生徒の規範意識育成に努めてきた。後期保護者学校評価では100%の肯定的回答であり、目標値を達成できた。	◎
		ふるさと教育の充実	「学校は、地域の特色を生かした教育活動の推進に努めている。」に「十分」と回答する保護者の割合を100%とする。	A	外部講師との連携を密に行い、より主体的で探究的な学びとなるよう教育課程を編成・実施してきた。また、その様子について学校だよりやホームページ、インスタグラムなどを通じ保護者や地域への広く周知してきた。後期保護者学校評価では100%の肯定的回答であり、目標値を達成できた。	◎
		読書活動の推進	「学校は、生徒に読書への興味を持たせる読書活動の充実に努めている。」に「十分」「おおむね十分」と回答した保護者の割合を100%とする。	B	学校司書や市立図書館と連携し、生徒の興味・関心がある本の購入、ポップ作りの実施、わくわくブック号を活用した本の貸し出しなど読書活動や環境の充実に努めてきた。また、読書活動の推進について保護者へ周知してきた。後期保護者学校評価では100%の肯定的回答であり、目標値を達成できたが、後期生徒学校評価「家でどれくらい本を読むか」において「ほとんど読まない」と回答した生徒が75%であった。	◎
		体験活動の推進	「学校は地域の人材や施設を活用した体験活動をすすめている。」の肯定的回答をする教員の割合を100%とする。	A	総合的な学習において、地域人材による「蘭島海水浴場の海浜清掃」「忍路のウニの学習」などを通して体験活動や地域学習の充実に努めてきた。また、学習の様子を学校だよりやホームページ、インスタグラムなどを通じ保護者や地域へ広く周知してきた。後期教職員学校評価の肯定的回答は100%であり、地域を理解し、発信する体験活動を推進することができた。	◎
		コミュニケーション能力の育成	全国学力・学習状況調査「話し合う活動」について、肯定的回答をする生徒の割合80%以上、生徒学校評価100%を達成する。	B	全ての教科での振り返りなど「自分の考え」を表現する場面を設定し、他者と協働的に学び合うことができる教育活動をすすめてきた。また、学力向上検討委員会を定期的に開催し、視覚的・聴覚的・体験的学習等、様々な学習スタイルを取り入れるなど授業改善に努めてきた。全国学力・学習状況調査「話し合う活動」について、100%の肯定的回答であったが、後期生徒学校評価では67%の肯定的回答であり、目標値を達成できなかった。	◎
		いじめの防止や不登校児童生徒の支援の充実	「学校は、いじめや不登校の未然防止のためにアセスメントなどに取り組んでいる。」に「十分」「おおむね十分」と回答する保護者の割合を100%とする。	B	年2回のアセスメント実施し、個別支援対策委員会において支援体制の改善、充実に努めた。また、全職員で全生徒を見守る温かい学校風土を大切にし、生徒のウェルビーイング向上に向けた取組や欠席時の板書のクラウド化や課題提出による評価の工夫など不登校生徒へのサポートをすすめてきた。しかし、後期保護者学校評価では80%の肯定的回答であり、目標値を達成できなかった。	◎
改善方策		・「コミュニケーション能力の育成」について、全教科で実施する自分の考えを表出する活動を通して、論理的な思考力や表現力を育成し、他者とのコミュニケーション能力を高めていけるよう小中一貫して取り組む。 ・生徒のアセスメントを実施し支援体制の拡充を図るとともに登校時の出迎え、生徒への声かけなど全職員で全生徒を見守る温かい学校風土の継続、欠席生徒への個別対応や教育相談など生徒のウェルビーイング向上に向けた取組をすすめる。				
学校関係者評価委員による意見		・「豊かな心の育成」の実現のために、道徳、ふるさと教育、読書、体験活動がなされていることは素晴らしいと思う。地域の特性を生かし、今後も継続して取り組んでほしい。また、その取組を地域だけではなく、地域団体や市内全域に知らせてほしい。 ・進んで本を読まない生徒が多いと感じている。今後も図書室に置いてほしい本のアンケートを実施するなど、工夫して取り組んでほしい。				

小樽市教育推進計画の目標		施策項目	数値目標	自己評価		学校関係者評価
				評価	取組状況・達成状況	
3	健やかな体の育成	体力・運動能力の向上	「学校は、体力向上のために体つくりの運動など、運動能力の向上に努めている。」に「十分」と回答する保護者の割合を100%とする。	A	体育教員を交えた昼休みのボール運動やバドミントン、生徒会企画による小中合同遊びの実施など体育の授業以外にも楽しく体を動かし、体力が向上していく環境づくりに努めてきた。また、その取組を学校だよりやホームページ、インスタグラムなどを通じて保護者への周知をしてきた。後期保護者学校評価では100％の肯定的回答であり、目標値を達成できた。	◎
		食育の推進	全国学力・学習状況調査の生徒質問紙調査において「朝食を毎日食べている。」と回答する割合90％以上とし、外部講師を招いての食育授業を実施する。	A	外部講師による食育講座を実施し、栄養の大切さや健やかな成長と規則正しい食生活について、体験的に学習する機会を設定した。全国学力・学習状況調査において「朝食を毎日食べている」について100％、後期生徒学校評価では100％の肯定的回答と目標値を達成できた。	◎
		健康教育の充実	「学校は、家庭と連携し、望ましい生活習慣づくりに取り組んでいる。」に「十分」「おおむね十分」と回答する保護者の割合を100％とし、健康に関する外部講師を招いた健康に関する講座を実施する。	A	夏季休業や冬季休業開けに生活リズムチェックシートを活用した取組を家庭と連携して実施するとともに保護者会などを通じて健康教育実施の状況について周知した。また、食育や薬物乱用防止、AEDの使用の仕方など健康に関する外部講師を招いた授業を計画的に実施した。後期保護者学校評価では100％の肯定的回答であり、目標値を達成できた。	◎
改善方策		・体力向上や健康教育の充実に係り、運動週間、生活リズムチェックシート、食育講座への取組を計画的に実施する。				
学校関係者評価委員による意見		・生徒が少ないことから、できるスポーツも限られてしまうと思うが、子どもたちの「体力・運動能力の向上」を目指して、今後も団体で、みんなで運動することの楽しさを味わわせてほしいと思う。 ・「健やかな体の育成」に関しては、家庭との連携が必要なので、保護者への密なる働きかけや工夫ができるようにしてほしい。				
4	家庭・地域との連携・協働の推進	家庭教育支援の充実	生活リズムチェックシートを年複数回実施し、家庭学習の習慣化を図り、生活リズムチェック週間で家庭学習をしない生徒0とする。	B	夏季休業、冬季休業明けに「生活リズムチェックシート」実施期間を設定し、保護者と連携した生活習慣の改善に努めている。1人1台端末によるアプリ、デジタルドリルの内容を吟味するとともに、家庭学習スプレットシートなどの活用により個への声かけ、アドバイス行い、基礎学力や学習習慣の定着をすすめてきた。生活リズムチェック週間、および後期生徒学校評価において家庭学習をしない生徒は2人であった。	◎
		学校と地域の連携・協働の推進	「学校は地域の人材や施設を活用した体験活動をすすめている。」の肯定的回答をする教員の割合を100％とする。	A	「蘭島海水浴場の海浜清掃」や「忍路のウニの学習」など、地域を理解する教育活動をすすめてきた。また、その様子を学校だよりやホームページ、インスタグラムなどを通じ保護者や地域へ広く周知をしてきた。後期教職員学校評価の肯定的回答は100％であり、目標値を達成できた。	◎
改善方策		・家庭や地域との連携を見直し、学校運営協議会委員と協力する教育活動を推進するとともに、ホームページやインスタグラムなどを活用した広報活動に取り組む。 ・生徒の取組実態、各種アンケートの分析結果から生徒の家庭学習状況を把握し、家庭学習への取り組み方や内容について工夫・改善に努めるとともに家庭と連携して生活習慣の改善、家庭学習習慣の定着を図る。				
学校関係者評価委員による意見		・「学び」「遊び」「運動」など、子どもたちが適切に行うことができるよう、これからも家庭との連携を密にしていってほしい。 ・町内会の回覧板にある学校から発行される「学校だより」は、学校の様子を知ることができてとてもよいことと思っている。今後も、地域への配布を継続してほしい。				

5	学びと育ちをつなぐ学校づくりの実現	学校段階間の連携・接続の推進	小中共通のグランドデザインを作成し、小中併置に係る保護者アンケートの肯定的回答を100%とするとともに、保育所との連携を進める。	A	今年度の重点目標を共有し、小中合同の行事や中学校教員による小学校への専科授業の実施など小中連携した教育活動を計画的にすすめてきた。また、保育所にも行事の案内をしたり、保育の学習で協力いただいたりと連携を深めることができた。後期保護者学校評価では100%の肯定的回答であり、目標値を達成できた。	◎
		教育環境の整備・充実	教育環境の点検を年4回実施する。	A	年4回に限らず、日々の巡視や授業参観において教室の教育環境を点検し、子どもにとって学びやすい環境作り、ユニバーサルデザインを意識した環境整備にに努めている。	◎
		教職員の資質・能力の向上	年2回職場でのコンプライアンス研修を実施し、教員一人、3回以上の研修会、研究会への参加と体罰に関する調査で「体罰0」の継続。	A	日々の研修や全体での打ち合わせにおいてもコンプライアンスに関する資料の提示や回覧を積極的に行ったり、各種研修への参加を呼びかけたりした。校内研修や小樽市教育研究会への参加も含めて全教職員が3回以上の研修会に参加し、資質・能力の向上に努めることができた。また、体罰などに関する調査において「教員による体罰0」を継続することができた。	◎
		学校運営の改善	超過勤務時間が月45時間以下の教員の割合を90%以上とする。	A	校務分掌の見直し、小中連携した分掌業務体制を確立してきた。また、クラウドを活用した職員会議のスリム化、連絡体制の工夫改善など学校DXによる校務改善、働きやすい環境の整備に努めてきた。12月末までの超過勤務時間が月45時間以下の教員の割合は100%であり、目標値を達成できた。	◎
		学校安全教育の充実	「学校は、警察・消防等との連携など安全教育の充実に取り組んでいる。」に「十分」「おおむね十分」と回答する保護者の割合を100%とする。	A	小中合同の交通安全教室や年3回の避難訓練の実施、学校運営協議会委員と連携した防災講話や交通安全街頭指導を実施し、保護者へ学校の安全教育について周知を図ってきた。後期保護者学校評価では100%の肯定的回答であり、目標値を達成できた。	◎
改善方策		・小中合同で行うことができる行事や教育活動を精選し、工夫改善を図ることで、学校教育目標の具現化に取り組む。 ・学校運営協議会委員や地域と連携し、学校安全教育及び防災教育の充実に向けた取組を実施する。				
学校関係者評価委員による意見		・素晴らしい取組がなされていると思う。これからも、工夫改善をしながら、魅力ある教育活動を継続してほしいと思う。 ・子どもたちの教育をサポートしていくためにも、保育園と小学校、中学校が連携してけたらよいと思う。				
社会教育に関連する目標（目標6～8）			本への興味・関心を喚起するため、市立図書館と連携し、POPづくりに参加する生徒を100%とする。	B	学校司書や市立図書館と連携してわくわくブック号による本の貸し出しを2回実施した。また、生徒へのアンケート結果をもとに本を購入し、本のポップ作りに取り組むなど本への興味・関心を高めてきた。POPづくりに参加する生徒は100%と目標値を達成できた。しかし、後期生徒学校評価「家でどれくらい本を読むか」において「ほとんど読まない」と回答した生徒が75%であった。	◎
改善方策		・学校評価の分析結果を共有し、読書環境の整備、工夫改善により読書習慣の確立に努める。 ・学校司書や市立図書館と連携した取組をすすめ、読書活動の推進について保護者への周知を図る。				
学校関係者評価委員による意見		・子どものゲームや動画の視聴、SNSの利用などについて、保護者と話し合い、改めて読書の大切さについて確認し、連携しながらすすめてほしい。				